

2004年9月10日発行

北海道情報大学 学内報

発行：北海道情報大学

〒069-8585

江別市西野幌59-2

TEL 011-385-4411

FAX 011-384-0134

ななかまど Vol.31



目次

- 松尾三郎生誕90年の集い … 2～3
- 南京大学との交流締結 …… 4
- 中国政府の使節団来学 …… 5
- ジャック・キャロン先生 …… 5
- 自己発見レポート …… 6～8
- 授業評価 …… 9
- eアシーナ …… 10
- 大学院より …… 11
- 新任教員挨拶 …… 12
- ゼミ・クラブ紹介 …… 13
- 体育祭特集 …… 14～15
- Yosakoiソーラン特集 …… 16
- 同窓会 …… 17
- 施設紹介 …… 18
- 財務報告 …… 19
- 主要行事 …… 20



写真 上：空から見た北海道情報大学
下：体育祭、Yosakoiソーランから



松尾三郎 生誕九十年の集い

法人事務局長 中島 安敬

本学園をはじめeDCグループの創設者である松尾三郎の生誕九十年を節目に、今一度松尾三郎の足跡を辿りながら偉大な功績を讃え、お世話になった方々への感謝とeDCグループの更なる発展を期するため、平成16年7月8日(木)京王プラザホテル(東京)において「松尾三郎 生誕九十年の集い」が開催されましたので、その概要をご報告いたします。



式場入り口前のパネル



「松尾三郎 生誕九十年の集い」には、厳しい暑さの中、東京を中心に全国から220余名の来賓の方々と90余名のeDCグループ関係者が出席されました。午前11時から、松尾理事長、角田副社長、久野学長がメインホール入口にて立礼で来賓の方々を迎えられました。



午前11時30分、司会者（ニッポン放送アナウンサー川野良子）の開会の言葉により集う会が始まりました。はじめにeDCグループ代表の松尾理事長が次のような挨拶をされました。



「今日は、松尾三郎 生誕九十年ということで、北海道から九州までたくさんの方にお集まりいただきまして、本当に感謝しております。このような催しを設けることができますのも、皆様のおかげと心より感謝申し上げます。松尾三郎は平成10年9月1日に亡くなりました。ですから、満六年になります。二年目にもまさにこの京王プラザホテルのエミネンスホールで三回忌をやらせていただきまして、その際にも今日ご出席の方に色々お世話になりました。また、ここで改めて御礼申し上げます。今年は松尾三郎が逝去して七回忌になりますが、故人も賑やかで明るいことが好きだったので、普通の七回忌というちょっと湿っぽくなるのでいかがなものかと頭を痛めておりました。そこで、ちょうど昨年、小津安二郎監督が生誕百年で、「生誕百年の集い」というのを衛星放送で拝見しました。お祝いをする会ということで、「これはいいな」とこのアイデアをいただいた次第です。松尾三郎もたまたま生誕九十年であり、九十年の誕生日を祝うとともに我々も頑張っていこうということで、皆様、今日はお祝いの会でございます。確か三回忌の時は“献杯”をやりました。“杯を献げる”ですから祭壇に向かってやりましたが、今日は“乾杯”でございますので、こちらを向いてお祝いで乾杯したいと存じますので、段取りの程よろしくお願いいたします。生前松尾三郎もいろんなことを申しておりましたが、特に“人間関係っていうのは非常に大事だよ。仕事が成功

するか否かは、人間関係を大切にするか否かで決まるのだよ”ということを常々申しておりました。今日この集いの会を催させていただいて、その言葉の重みがひしひしと伝わってくるような感じがいたします。私どもはeDCグループとして運営しておりますが、この人間関係の大切さを基盤に、また明日から未来に向かって邁進する所存でございますので、今日ご列席の皆様のみまますのご指導ご支援を賜りますようお願いいたします。

今日最初にこの会場に来たのは多分松尾三郎だと思います。昨夜からずっとスタンバイしている訳でして、先程から“もうそろそろ始めたらいいんじゃないか”と申しております。私もその方がいいのではないかと思いますので、早速、松尾三郎生誕九十年の集いを始めさせていただきます。短い時間ではございますけれども、先ほど申しましたように、お祝いですので充分楽しんでいただければ幸甚に存じます。簡単ではございますが、これをもちましてご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。」

続いて、松尾三郎の功績とeDCグループのこれからのビジョンをまとめたビデオ「時代の息吹」が放映され、メインホールの大型スクリーンに映し出された見事な映像にご臨席の方々が感動されておりました。次に、ご来賓の方々を代表して前大分県知事平松守彦様、元郵政省事務次官中村泰三様、株式会社東京三菱銀行元頭取・特別顧問若井恒雄様のご挨拶がありました。続いて、司会者より主要な来賓の方々（総務省総務審議官高原耕三様、前北海道知事堀達也様、元北海道副知事中山利若様、江別市助役中川正志様、株式会社東京三菱銀行頭取畔柳信雄様、財団法人コンピュータ教育開発センター理事長宮島龍興様、総務省技術総括審議官鬼頭達男様、元宇宙開発事業団理事長大澤弘之様、社団法人日本教育工学振興協会会長坂元昂様、株式会社NTTデータ代表取締役社長浜口友一様、株式会社東京三菱銀行副頭取小幡尚孝様、三菱電機株式会社代表取締役会長谷口一郎様、元北海道大学総長有江幹男様、日本私立大学協会副会長森本正夫様）の紹介がありました。

この後、松尾三郎の京都帝国大学時代の同級生を代表して、元シャープ株式会社副社長で株式会社国際基盤材料研究所代表取締役会長佐々木正様のご挨拶と力強いご発声で乾杯がなされ開宴となりました。



ステージではハーブアンサンブル(ハーブ、フルート、ピアノ)による生演奏が始まり、しばし歓談の後、司会者より祝電の披露があり、北海道知事高橋はるみ様、衆議院議員町村信孝様、大分県知事広瀬勝貞様の祝電が紹介されました。歓談が進む中、ステージでのアトラクションとして中国古来の楽器である二胡(にこ)、やんきん、びわによる三重奏で蘇州夜曲など7曲が演奏され、二胡などの珍しい楽器の素晴らしい音色はご臨席の方々を魅了していました。



歓談は、終始和やかな雰囲気が進み、午後1時50分、司会者より閉会の言葉があり、松尾理事長、角田副社長、久野学長がメインホール出口において立礼で来賓の方々をお見送りされて、集う会は無事に終了いたしました。

「松尾三郎 生誕九十年の集い」で放映されたビデオ「時代の息吹」のDVD版が、全教職員に配布されましたので、これを視聴していただければ、eDCグループの創設者である松尾三郎の偉大な功績を認識され、eDCグループの更なる発展のためそれぞれの立場で決意を新たにされるのではないかと思います。最後に、「松尾三郎 生誕九十年の集い」のeDCグループ実行委員会、事務局の方々とこの集いの会実施に向けてさまざまな形でご協力、ご支援をされた皆様方に敬意を表する次第です。

南京大学との交流締結



情報メディア学部長 井野 智

電子開発学園と北海道情報大学が、それぞれ中国南京大学との間に国際

交流協定を結んだのは1999年のことである。

以来、同協定にもとづき、本学の学生が夏休みを利用して南京大学で語学研修を行ってきた。本学でも、情報メディア学部設置当初から3年次編入学生20名の定員枠を設け、ここに南京大学からの留学生を受け入れ、協定の原則である"平等互惠と相互利益"の実をあげようとの合意が得られている。

協定の有効期間(5年)切れにあたり、双方が交流継続の意義を認め、去る5月12日、南京大学において調印式が行われた。電子開発学園から松尾泰理事長、中居聡士常務理事、中島安敬理事、SCCから篠原博取締役、本学からは筆者と通訳をつとめる田中英夫助教授が参列した。筆者が加わったのは、上記編入学の留学協同プロジェクトに関する覚書に調印するためである。

南京大学は100年を越える歴史をもち、日本の東大あるいは京大に匹敵する中国有数の重点総合大学である。このような名門大学との交流がどのような経緯で始まり、双方にどのようなメリットをもたらすのだろうか。以下、今回の調印式に臨み筆者が知り、感じたことを述べてみたい。

本学を創設した故松尾三郎初代理事長が情報化時代の到来を予見し、関連分野の企業、研究所、情報専門学校を全国各地に設立したことはよく知られている。通信技術分野で優れた研究業績をもつ同氏は、国際会議で知己となった中国人研究者の勧めに応じて、東京のソフトウェアハウス(現SCC)に南京大学の卒業生を研修生として受け入れる一方、中国の南京有線電公司の技術指導にも尽力された。30年以上前のことである。

今回、南京大学を訪問して、計算機科学学部やその関連会社南大ソフトが松尾三郎に連なる人脈に支えられていること知った。その多くは現理事長とも厚い信頼と温かい友情で結ばれており、ご父君が育てた日中

二つの教育機関の交流を図り、電子開発学園、とくに本学の教育・研究を活性化しようとする現理事長の熱意を痛感した。

新たに締結した「編入学の留学協同プロジェクト」は、日本語に堪能な高度情報処理技術者の育成を目的として、南京大学で2年間かけて日本語・日本文化および計算機科学・技術を履修したのち、本学で2年間かけて情報メディア学部の専門科目を履修させようとするもので、一期生の授業は本年9月に始まり、2年後には20名近い留学生を本学に迎える予定である。

留学志望者に対する学力試験は、南京大学の一般入試とは別に行われるが、中国の大学統一試験を受験し、成績が一定の基準を上回ることを条件としており、合格者の学力はかなり高いと考えておくべきである。残念ながら本学では、学生間の基礎学力や勉学意欲の隔たりが大きく、すべての学生が満足する授業が年々難しくなりつつある。留学生だけでなく、意欲ある学生の期待に応える授業をどのように実施するかについて、全学あげて真剣に検討することが急務である。

南京大学の構内で"今日我以南大為榮 明日南大以我為榮"と記された横断幕を見かけた。"今は私が南大を誇りとし、将来は南大が私を誇りとする"の意味である。本プロジェクトが、北海道情報大学の全構成員が誇りをもてる大学に生まれ変わる絶好の機会となることを期待し、本稿のむすびとする。



前列左が南京大学陳副学長、右は本学松尾理事長

中国政府の視察団来学

平成16年6月21日(月)午前、中華人民共和国の国家外国専門家局の視察団が来学しました。国家外国専門家局は中国政府の人事部に属する組織で、外国政府との交流の窓口となるセクションです。主な業務は経済発展のため外国から専門家を招聘すること、及び逆に中国から外国に研修等のため人材を派遣することです。今回の視察団は、陳常務副局長はじめ7名で構成されていました。



最初に久野学長への表敬訪問が行われ、久野学長の挨拶、専門家局の陳常務副局長の挨拶に続き、中国語版本学紹介ビデオを見ていただきました。ビデオ終了後、引き続き



本学キャンパスと北海道情報技術研究所を見学されました。キャンパスでは、画像メディア実習室や、本学の参加するスペース・コラボレーション・システムと、そのための衛星教室に大きな関心を寄せられたようです。また北海道情報技術研究所では、バーチャルスタジオやモーションキャプチャ装置を体験するなどして、昼食後帰途につかれました。短い時間にもかかわらず、互いの親交を深めることができ、今後中国とのますますの友好の進展に期待が持たれます。(総務課)

久野学長(前列中央)と視察団一行

Jack D. Callon先生を迎えて

経営ネットワーク学科主任 教授 富士 隆



本学とカリフォルニア大学サンタクルーズ校(UCSC)の間には、教職員の交流、学生の相互留学、共同研究などの推進を目的に国際交流協定が結ばれています。本学学生の短期海外留学や長期海外留学は既に実施されていますが、今回初めて、UCSCから本学客員教授として、キャロン先生をお迎えすることができました。

キャロン先生は、UCSCで情報システムを教えますが、IBM社での約28年間のマーケティング分野の実務経験から、特に、「情報技術を活用することによって、企業の競争優位性を獲得することの重要性」を主張されています。

6月30日(水)から7月29日(木)までの約4週間の滞在中、大学院の授業、学部の授業、特別講演会、教職員向けの講演会など精力的に活動されました。

松尾記念館講堂で開催された特別講演会では、350名以上の学生、教職員が参加され、学生から大変活発に、質問が出されました。キャロン先生も、学生の質問の質の高さに感心されていました。



また、教職員向けの講演会での、キャロン先生の「学生は私にとって顧客であり、卒業生は製品である」というメッセージは、非常に印象深いものでした。このように、今回のキャロン先生の招聘によって、UCSCとの相互の交流が確実に進展したと思います。ご協力頂いた関係者のご努力に感謝いたします。

自己発見レポートの概要について

学生部長 坂上 修二

平成15年度から新生生に対して「自己発見レポート」という一種のテスト(アンケートも含む)を実施しておりますが、先頃今年度の結果ができましたので、この欄をお借りしてその概要を紹介いたします。

ところで「自己発見レポート」の目的ですが、それは学生の皆さんにとっては早期に自分の適性などをよく知って大学生活の目標を定め、将来像、進路・職業観を明確にすることにあります。また、大学にとっては、学生一人ひとりの能力・資質を考慮した指導のための基礎材料として、またカリキュラム改正の際の参考資料として役立つことにあります。

以下に結果の概要を述べますが、まず先に今年度の結果は昨年度とほぼ同様であったことをお伝えします。

〔1〕性格の傾向

- ・内向的、外向的の分類では前者の割合がやや多いが、行動派と熟慮派という分類では、両者は半々である。

〔2〕社会的強み(社会性)

- ・全体的には、コンピュータ能力、自己統制力の点で強みを持つ(5段階で3以上)。
- ・一方、意欲、適応力、協調性、指導性などの点で弱い(5段階で2.1~2.8)。このことは男子学生の傾向でもある(全体の92%が男子学生)。
- ・女子(31名)の傾向は男子とほぼ同様であるが、協調性の点で男子をやや上回る。
- ・両学部傾向は全体の場合と同様であるが、創造的態度の点で情報メディアが経営情報よりやや上回る。

〔3〕職業的興味

- ・男子学生は技術生産、企画開発、広報宣伝に関する興味が大きい。下位の三つは営業販売、社会福祉、教育である(右上図参照のこと)。
- ・女子学生の場合も広報宣伝、技術生産、企画開発への興味が大きい。下位の三つは教育、社会福祉、起業である。昨年度2位の国際は今年度は6位に後退している。
- ・上位3つに関しては男女差は少ないが、起業

に関しては男子学生の場合、中の下であるが、女子学生の場合は最下位となっており、冒険を避けるということであろう。

- ・両学部とも上位は技術生産、企画開発、システムであり大差ないが、広報宣伝に関しては経営情報では第4位であるのに対して情報メディアでは第2位であり、メディアに対する興味の違いが現れている。



〔4〕学習スタイル

- ・全体的には、経験やフィーリングを重視(直感型)しつつ実践的に課題を解決するスタイルが35%と最多である。
- ・次に、本質を理解し探究(論理型)しつつ実践的に課題を解決するスタイルが25%、同じく論理型と比較対象し熟考するスタイルが25%で、両者を合計すると論理重視型が50%となる。これは男子学生の傾向でもある。
- ・女子学生は経験やフィーリングを重視(直感型)しつつ実践的に課題を解決するスタイルは48%で男子学生よりもかなり多く、逆に論理重視型は35%と少ない。
- ・両学部とも全体の傾向とほぼ同様であるが、異なる点は論理型の熟考スタイルの割合が経営情報学部でより多く、逆に論理型の実践スタイルの場合は情報メディア学部でより多いことである。

〔5〕能力(学内比較)

- ・全体の日本語、判断推理能力の各偏差値平均値は当然のことながら50となる。これは男子

学生の平均値でもある。

- ・女子学生（31名）は男子学生よりも英語では優れているが、日本語と判断推理能力で若干劣っている。昨年度の場合、女子は英語に加えて日本語能力でも男子よりも優れており、判断推理能力もほぼ同程度であった。
- ・両学部の平均値はほぼ同じである。
- ・浪人生（20名）は英語、日本語の分野で全体よりも優れているが、特に日本語能力が高い。昨年度の場合、英語能力は高いが、日本語、判断推理能力は全体と同程度であった。

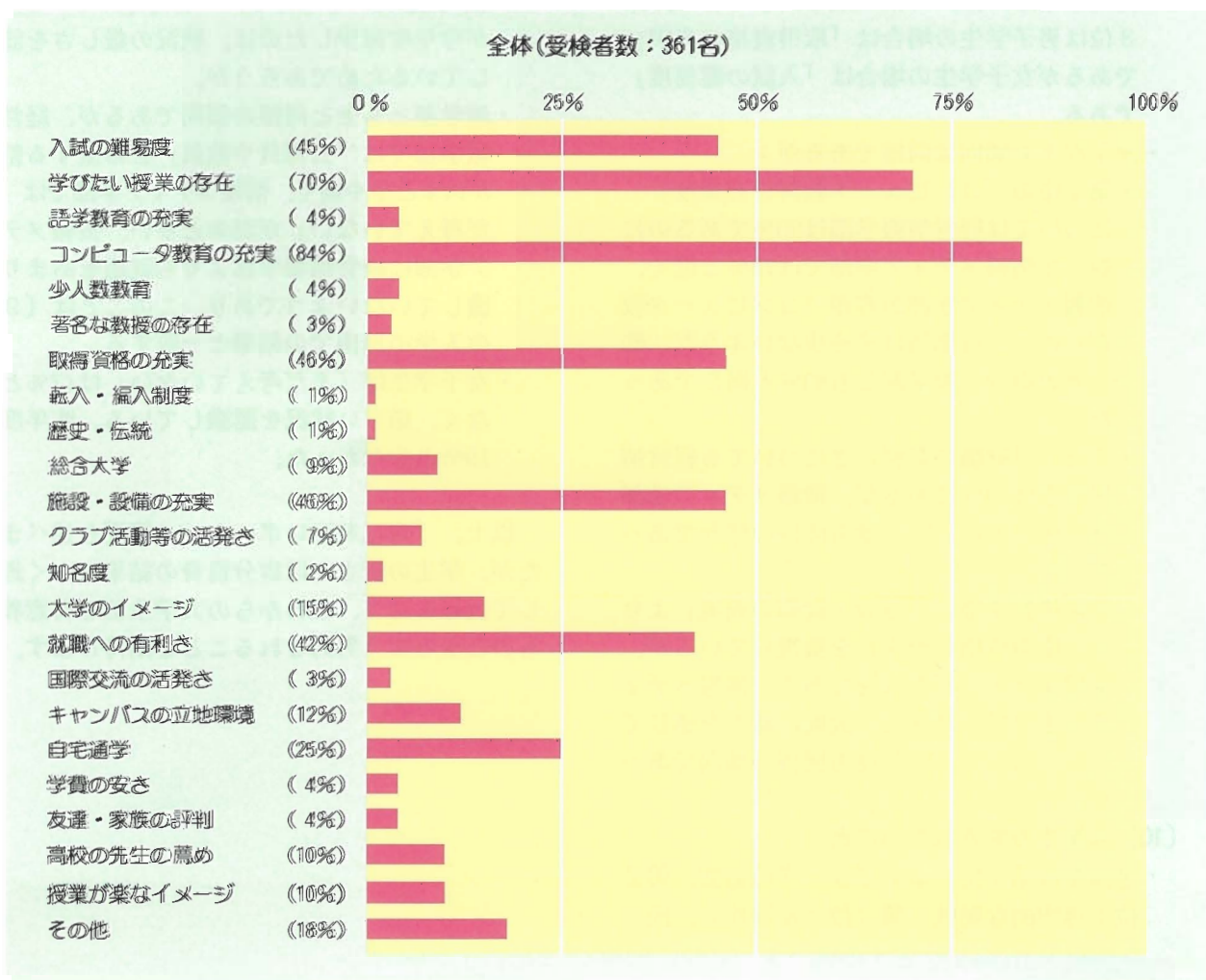
〔6〕能力（全国比較）

- ・全体の各能力の平均値は全国平均よりやや低く、偏差値で44-49の範囲にある。昨年度より英語がわずかに向上し（44⇒45）、日本語ではやや下降した（50⇒48.6）。

- ・男子学生の場合、日本語、判断推理能力とも約49であるのに対して、英語能力が45と低い。昨年度も同様であった。
- ・女子学生は英語力が47、日本語能力が48であるのに対して、判断推理能力が44未満と低い。昨年度の女子は日本語能力が約53と高く、判断推理能力も48とまずまずであった。
- ・両学部の傾向は同様で、日本語、判断推理能力に比べて英語が弱い。
- ・浪人生（20名）は日本語能力が55強と高い。昨年度は英語（47）以外は全国平均レベルであった。

〔7〕進路観構成比較（進路準備の状況）

- ・男女、学部を問わず、進路条件（分野、勤務地、夢、ライフスタイル）を最も考慮している。次に働くことの意味、自己理解度と続く。



職業内容理解は最低である。

〔8〕 受験決定時期

- ・高校3年の7-9月に決定することが最も多く23%、次が10-12月で20%である。
- ・高校2年の終わりまでに20%が決定しており、オープンキャンパスの重要性がわかる。

〔9〕 入学理由

- ・全体では、第1位：コンピュータ教育の充実(84%)、第2位：学びたい授業の存在(70%)、第3位：取得資格の充実(46%)、同：施設・設備の充実(46%)、第5位：入試の難易度(45%)、第6位：就職への有利さ(42%)、と続く(前ページグラフ参照)。
- ・昨年度の場合、上位6つは上と同じであるが、「就職への有利さ」は今年度よりも高く第3位であった。
- ・男女とも第1位、2位は上と同じである。第3位は男子学生の場合は「取得資格の充実」であるが女子学生の場合は「入試の難易度」である。
- ・両学部とも傾向は同様であるが：
 - ・第1位の「コンピュータ教育の充実度」については経営情報学部は90%であるのに対して情報メディア学部では78%と低く、情報メディア学部の方が「コンピュータ教育」にかける期待はやや少ないようだ。昨年度の場合、両学部とも83%と同じであった。
 - ・また、「就職の有利」さについても経営情報学部は49%であるが、情報メディア学部は35%と低い。昨年度も同様の傾向であった。
 - ・経営情報学部は「施設・設備の充実」よりも「取得資格の充実」を重視しているが、情報メディア学部は逆である。情報メディア学部の学生は施設、設備に魅力を感じていると言える。昨年度も同様の傾向であった。

〔10〕 大学で力を入れたいこと

- ・全体では第1位：コンピュータの勉強、第2位：専門的な勉強、第3位：友達作り、同：

資格取得の勉強、である。昨年度も同様の傾向であった。

- ・女子学生の第1位は上と同じであるが、第2位と3位が入れ替わっており、「友達作り」を重視している。昨年度は第2位が「専門的な勉強」、第3位が「友達作り」であった。
- ・経営情報学部では第3位が「資格取得の勉強」、第4位が「友達作り」が4位である。昨年度も同様であった。
- ・情報メディア学部では経営情報学部とは逆に、「友達作り」が「資格取得の勉強」を上回っている。昨年度は経営情報学部と同様に「資格取得の勉強」が上回った。

〔11〕 大学卒業後の進路

- ・全体では、「一般企業」が60%、「公務員や教員」が11%、「まだ考えていない」が22%(昨年度は27%)である。「まだ考えていない」が今年度減少したのは、状況の厳しさを認識しているためであろうか。
- ・両学部とも上と同様の傾向であるが、経営情報学部では「公務員や教員」を希望する割合が14%とやや高く、情報メディア学部では「まだ考えていない」が25%と多い。情報メディア学部は経営情報学部よりも就職をあまり意識していないようであり、このことは〔9〕の入学の理由での結果と一致する。
- ・女子学生は「まだ考えていない」は17%と少なく、厳しい状況を認識している。昨年度も19%と少なかった。

以上、「自己発見レポート」の概要を述べましたが、学生の皆さんは自分自身の結果をよく理解して目標を立て、これからの大学生活を有意義なものとなるよう努力されることを期待します。

平成16年度

「学生による授業評価」アンケート調査について (中間報告)

教務課長 加藤 邦雄

はじめに

平成16年2月16日(月)に開催された点検評価委員会において、本学の授業内容や授業方法の改善を目的とし、平成16年度に「学生による授業評価」を行うことが決定しました。これを具体化するため小委員会が設置され、実施内容について検討が重ねられました。この検討結果は4月30日開催の点検評価委員会で承認され、5月の連休明けから、実施に向けた準備を進めてまいりました。

なお、今回は教員に対してもアンケートをお願いし、授業に対する取り組みや意見等をお聞きし、「学生による授業評価」の結果と併せて授業改善の資料にすることとしております。

(3) 対象教員

- 106名
- 《内訳》
- ◇専任教員 61名
- ◇非常勤教員 45名

2. 今後の予定

- (1) 前期分の調査結果については、「ななかまど」の次号で報告する予定です。
- (2) 後期分のアンケート調査については、12月第3週に実施する予定で準備を進めております。

1. 平成16年度 前期分実施報告

(1) 実施期間

7月5日(月)～7月9日(金)
但し、休講等の場合は翌週に実施しました。

(2) 対象科目

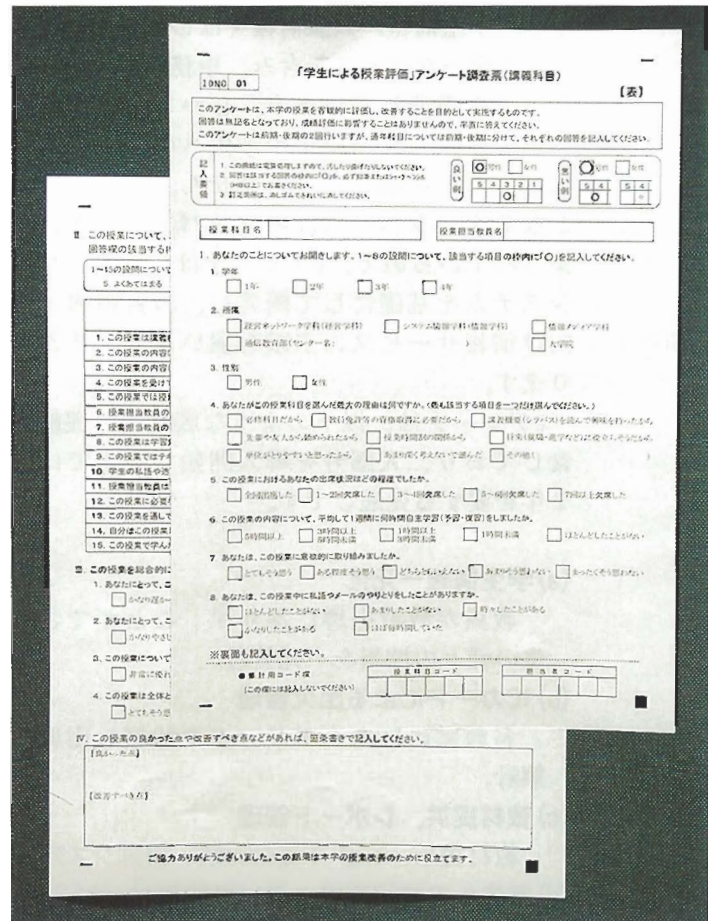
172科目 239クラス

《内訳》

- ① 経営情報学部 85科目 126クラス
* 前期は通学課程のみ実施、通信教育部については後期に実施する予定です。
- ② 情報メディア学部 67科目 93クラス
* 両学部合同授業科目は経営情報学部の方でカウントしています。
- ③ 大学院 20科目 20クラス

注；次の授業科目については、今回の調査対象から除いています。

- ・ゼミナール等
- ・体育実技(健康とスポーツ)
- ・海外事情
- ・再履修者用授業
- ・オムニバス方式授業
- ・教職に関する科目



教育情報システム「eアシーナ」について

経営情報学部長 林 雄二

教育に、あるいは学生へのサービスに、大学において情報技術の活用が期待されています。このたび情報大学では、本格的な教育情報システムの導入を進めることになりました。

このシステムは「eアシーナ(e-Athena)」と名付けられました。アシーナはギリシャ神話の知恵の女神アテナのこと、eはeducation、electronicsなどを意味しています。知恵と情報を教育に生かすことができるように願って命名されました。

本学には現在、キャンパスシステムと呼ばれる事務処理のための情報システムがあります。これは、教務情報、学生情報、入試情報をはじめとするデータベースを含み、事務の合理化を達成しています。しかし、現状のシステムでは、教育の支援や学生へのサービスの面はほとんど考慮されていません。とはいえ、核となるデータベースはキャンパスシステムで構築されているので、eアシーナは、現キャンパスシステムを基礎にして開発し、教育指導と学生向け情報サービスに主眼を置いたシステムになります。

eアシーナは、以下のような広範囲の機能を包含しており、大部分を導入開始するまでには約2年を要する見通しです。

(a) 学生情報一元化

教員が教育指導に活かすことができる学生の種々の情報を一元管理。

(b) ICカードによる出欠管理

各教室にICカードリーダーを設置し出席自動集計。

(c) 教材提供、レポート管理

教材提示、レポート受付の統一管理システム。

(d) 学生への情報提供と受け付け処理サービス

休講情報、教務情報、行事予定などの情報

を学生に提供。端末から履修登録を可能に。

(e) ICカードの活用

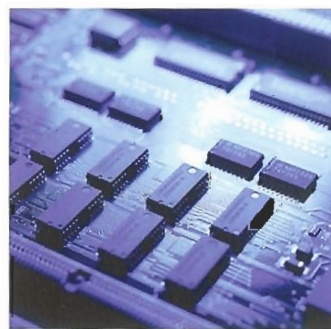
図書利用、証明書発行などをICカードで可能に。



本年の後期は、ICカードを利用した出欠管理システムを試行します。これは、教室の入り口にICカードリーダーを設置し、学生が教室に入る時に

かざしたICカードで出席を記録するシステムです。JR東日本のプリペイドICカード「Suica」や、電子マネー「Edy」と同じ方式の非接触ICカードFelicaを学生証としたものを、あらかじめすべての学生に配布します。当初は、入室するときかなり動作を意識することになるかも知れませんが、そのうちに習慣になることでしょう。

eアシーナは今後どんどん発展していきます。学生諸君の協力を得て、本学の教育が益々充実し、活性化する方向に向かうよう願っています。



時代の新しい息吹に応える

高度専門職業人をはじめとする 多彩な人材育成を目指して

—大学院がより高度の教育研究の創造を目指し実践的な学びの場へと変わります—



大学院研究科長 前田 隆

本学大学院は、1996(平成8)年4月の開設から今年で9年目を迎えています。この間、7期生まで52名の「修士(経営情報学)」の学位をもつ修了生を社会に送り出しており、それぞれの分野において本学で学んだ専門知識やスキルを生かして税理士やSEなどの専門職業人あるいは教育研究者として活躍しています。この中で、現在、2名が本学の教員として立派にその任務を果たしております。また、修了生の中にはさらに高度の研究活動に挑戦するため他大学大学院の博士課程に進学する者もいます。

21世紀を迎えて急速に社会経済のグローバル化・複雑化・多様化が進展するなかで、教育研究分野においても新しい価値観やパラダイム転換が要請されています。本学大学院でも、これまでの経営情報学を新たな視点から吟味し、これからの社会や新時代のニーズに応える実践的な専門知識・技術を追求していくために、2005(平成17)年度から従来の枠組みを一新し、広範かつ実践的な3分野6教育プログラムへと拡充・改革を行うことになりました。

具体的には、次のような時代の要請に応える清新な名称と趣旨のもと、これらの分野における高度の専門職業人をはじめとする多彩な人材の育成を目指して新たな決意をもって再スタートを切ります。

◆アカウンティング・マネジメント分野(従来の経営管理学・会計情報学系列を統合・充実)

- ① アカウンティングプログラム：ビジネスの基幹を支えるアカウンティング・会計士業に関する専門知識・理論を修得し、税理士資格試験等に向けた実践的教育を行う。
- ② ビジネスプランプログラム：新事業・起

業に向け、具体的なトピックを用いて実践的なビジネスプラン作成能力を高める専門知識・理論とスキルの獲得を目指す。

◆システムデザイン分野(従来の情報システム学系列を拡張・充実)

- ③ システム設計プログラム：システム設計に関する専門知識・スキルを実践的に学び、システムアナリスト・アプリケーションエンジニア等の資格取得に向けた実力を養う。
- ④ ネットワーク技術プログラム：ネットワーク技術に関する専門知識・スキルの修得に加え、ネットワークスペシャリスト資格取得に結びつく実践的教育を行う。

◆クリエイティブメディア分野(従来の情報処理学系列を拡張・充実)

- ⑤ 情報処理プログラム：知的メディア環境の基礎として、画像・数理・パターン・複雑系などの種々の情報処理技術に関する専門知識・スキルの修得を目的とする。
- ⑥ メディア制作論プログラム：映像・画像・知識を含めたメディアコンテンツ制作・デザインに関する実践的な企画・設計・制作・評価等の専門知識・スキルを修得する。

本学大学院では、これらの分野における先端的な知識や技術・スキルに関する学習研究を通じて、高度の専門職業人または研究者・教育者へのキャリア・パスを切り拓いていくことができる問題解決能力・研究能力の陶冶とその高度化を目指します。また、グローバルな視点から教育研究の創造を目指し、大学院のより高度の発展を展望しつつ実践的成果を着実に積み重ねていくことに努力を傾けているところです。

2004年4月からお世話になっています。

自己紹介すると……小生は札幌月寒の生まれで、大学は小樽商科大学商学部を卒業しました。その後5年間、大阪市立大学の大学院経営学研究科で学び、ついで小樽商科大学、大阪市立大学商学部（大学院経営学研究科）に勤務して、このほど北海道情報大学に着任した次第です。

このかん商学、なかでも会計学を専門に勉強してきたので、会計学べったりのようですが、自身はべつに会計学がかくべつ好きだったわけではなく、中高校生のころは小説家、それもSF作家になりたかったのです。それがどう間違っただけで今に至ったのかよく分かりませんが、人生なんて予定どおりにはいかないということなのでしょう。

北海道情報大学という、情報という名のつく大学に勤められるなんて、それだけで楽しくなります。ただし実際に何が出来るかはこれから少しずつ考えようと思っています。



経営ネットワーク学科 教授

福島 吉春



経営ネットワーク学科 講師

関根 洋

この度、経営情報学部講師として着任致しました関根洋です。

専攻は商法で、現在は法学概論と商法の講義を担当しています。

一般教養としての法律学は、特に法律学を専攻しない学生の皆さんを対象とするとき、どうしても抽象的な内容になりがちです。具体的な話も出来ないことは無いのですが、殊に法学概論の場合、「強制執行の直前に債務者が作らせた純金の総入函を差押える事が出来るか」「ストリップ・ショウを刑法175条の公然猥褻罪で検挙するとき、その『被害者』は観客である」というような断片的な法学漫談になりかねません。また、とりわけ近時は、消費者金融、様々なセールス、アルバイト賃金の未払等々、一種の「護身術」としての「法学」も必要なのか知らと考えさせられることも多く、講義の内容を模索する毎日です。

未熟と不慣れから御迷惑をお掛けすることを恐れますが、一生懸命勤めますので、学生の皆さん、教職員の皆さん、どうぞ宜しくお願いします。

新任であいさつ

「調査」「プレゼン」「ディスカッション」「自由」が坂本ゼミのモットーです。

坂本ゼミでは、国内外の企業を調べまとめて発表しディスカッションをしています。このディスカッションが大変です。議論が白熱し、大声が飛びかい、ときには掴みあいになりかけることがあります。

そこで面白いことがあります。坂本先生は、学生のプレゼンに対して「それは、無い」「それは、ダメ」などはほとんど言いません。

ゼミ生



坂本先生(手前)

また、坂本ゼミを楽しむということ言えば、坂本ゼミは「自由」なので、学生がやりたいことを言えば何でもできます。

4年生は今まで、サッカー、バレー、バスケットをしました。もちろんゼミの時間を使ってやりました。

坂本ゼミの特徴をもう一つ。それは、4年生の卒業論文を3年生と合同で聞くことです。なんと夕方から夜まで学校の会議室でやります。ここで3年生は4年生のプレゼンを聞き、プレゼンの技術を学びます。そしてこれが坂本ゼミです。

ゼミ 紹介 クラブ

坂本ゼミ

幹事 吉井 亮二

卓球部

顧問 チャールズ マックラーティ

地道な努力は成果につながる

5月29日に情報大学の体育館で、卓球部主催にて交流試合が行なわれました。卓球部の誘いに応じて、藻岩高等学校の卓球部とさっぽろ卓親会という社会人クラブも参加して、三角形の団体戦ができました。親善試合だったので、勝ち負けを気にせずお互いにいい汗を流し、交流も深めることができました。

しかし、親善試合とはいえそれぞれには目的があるはずで

ただいま北海道学生リーグ2部に活躍中の情報大チームにとって、社会人クラブと対戦

することが、強くなる大切なきっかけとなります。1部昇格を目指しているだけに、いろいろな相手と対戦した方が技術アップにつながるわけです。

日頃の練習の成果が出ているのですが、今の卓球部の成長のカギはやはり、交流試合も遠征試合も積極的に行なっていくことだと思われます。

もちろん、今後とも学生の試合だけではなく、各地域の社会人の大会における活躍を期待したいところです。皆さん、応援して下さい。



2004年 体育祭

6月23・24日



汗



勝負



熱気

- | | |
|--|--|
| <p>サッカー</p> <p>準優勝 1 C
1 F
1 G
ゼミ G</p> <p>※雨天のため、順位は決まっています。</p> <p>ソフトボール</p> <p>準優勝 2 H
2 E
ゼミ E
ゼミ K</p> <p>※雨天のため、順位は決まっています。</p> <p>バスケットボール</p> <p>優勝 武装戦線
準優勝 大嶋マジック
第3位 和田オカルト研究部</p> <p>バドミントン</p> <p>優勝 北の共和国から
準優勝 コジロー
第3位 堀剛</p> | <p>卓球</p> <p>優勝 教員チーム
準優勝 凹
第3位 ドドリアさんブラザー's</p> <p>スポーツチャンバラ</p> <p>優勝 カレー御飯!
準優勝 浅野圭太
第3位 ストチコフ123</p> <p>男子テニス</p> <p>優勝 年下の男の子君
準優勝 田村サーカス
第3位 なんまウィリアムズっしょ</p> <p>女子テニス</p> <p>優勝 白い蝶
準優勝 なんちやって
第3位 プー作</p> <p>綱引き</p> <p>優勝 和田
準優勝 TOW
第3位 ぼくムーミン</p> |
|--|--|

緻密



実行委員長
添田 徹

今年はテニスやスポーツチャンバラなどでルールを一部変更するなど、よりみんなが楽しめるよう、工夫を重ねてきました。去年とはまた違った体育祭を、楽しんでいただけたと思っています。

これを機に、ふだんあまり接することのない学生同士がコミュニケーションを深め、今後のキャンパスライフの充実につなげていただけたらと願っています。



力





Yosakoi 10周年2004

6月9～13日の5日間にわたって行われた「Yosakoi ソーラン」。大通会場を中心に、市内25カ所で踊りを披露しました。

本学は、昨年、地元・江別のチーム「江別まっことええ」と合流、チーム名も「江別まっことええ & 北海道情報大学」として、16人の学生が参加しました。

出場333チームを15ブロックに分けて審査が行なわれましたが、我がチームはブロック2位になり、支部長賞を獲得致しました。



↑本学から参加したメンバー



練習風景

江別市内の中学校で行われた練習の風景。全体が集まっての総練習が多くないため、振り付けや音合わせにも、本番さながらの真剣な表情。



北海道情報大学同窓会

東京支部 「臨時総会」・「講演会」・「懇親会」

■日時：平成16年5月22日(土)

1. 臨時総会 14:30～15:30
2. 講演会 15:45～17:05
3. 懇親会 17:15～19:00

■会場：中野サンプラザ

(東京都中野区中野4-1-1)

■特別会員、来賓の出席者

臨時総会の当日は以下の方々が出席致しました。

- ・北海道情報大学
事務局長 中居聰士様 (特別会員)
- ・北海道情報大学 東京事務所
所長代理 田中克義様 (特別会員)
- ・学校法人 電子開発学園九州
理事 山崎信雄様
(来賓/北海道情報大学 非常勤講師)

■臨時総会 議事次第

1. 開会
2. 北海道情報大学同窓会東京支部 支部長挨拶
3. 北海道情報大学 事務局長挨拶
4. 議長選出
5. 議事
 - (1)平成15年度
事業(活動)報告及び決算及び監査報告
 - (2)平成16年度
東京支部活動計画及び予算説明
6. 報告事項
 - (1)補充役員について(幹事)
 - (2)平成16年3月13日開催の本部臨時総会報告
(時計塔の寄贈について)
7. その他
 - (1)その他、皆様からのご意見・ご要望等
8. 閉会

■臨時総会 挨拶より

・支部長挨拶 阿部 孝(1期生)
昨年10月の支部発足からまだ日も浅いですが、東京支部としては、北海道を離れた同窓生に対して「同窓生のための同窓会」という有意義な活動ができるよう、尽力したいと考えております。その為には同窓生の皆様の声が大切ですので、どん

なことでもご連絡頂きたく、お願い致します。大学、同窓会の本部と連携し、ホットな情報を発信していくと共に、大学との共立(ともだち)を目指し、積極的に活動を行って参ります。

・特別会員 中居事務局長
大学も設立から16年目、学部も増設し、松尾記念館(講堂)、校舎も拡張しております。また、先端の知識や技術を取り入れた授業を实践、カリフォルニア大学サンタクルーズ校と提携を結び、海外短期研修も実施するなど、未来を見据えた構想を推し進めています。来道した際には、母校を是非訪ねてみて下さい。同窓会から時計の寄贈も計画されており感謝しています。今後は在校生と同窓会が交流を深めるようになれば喜ばしいことだと感じております。

■講演会の内容

- ・講演者：京須偕充(きょうす ともみつ)様
- ・テーマ：「落語—江戸からのメッセージ」



落語の録音(CD化)という前人未踏の仕事成し遂げるに至るまでの、落語家の諸先生方との信頼関係の構築や苦勞、偉人達の横顔、江戸文化から現代の落語の世界観をテーマとして大変興味深いお話を拝聴させて頂きました。

・講演時間：1時間20分



施設紹介 学内ネットワーク

情報センター事務室の市川です。情報センターでは、本学のコンピュータ設備の管理をしています。今号から連載で学内の実習機器(主にコンピュータ機器)の紹介を行います。

さて、第1回は、本学の实習設備の中核をなすネットワーク設備およびサーバ群です。

ネットワーク設備は、人間の体でたとえると心臓と血管に当たり、学内の情報の伝送を行っています。本学の敷地内には、校舎棟(1号館・2号館)、本部棟(研究室・事務室)、情報棟(松尾記念館：各実習室・図書館・講堂)があり、各棟を2重の光ファイバネットワークで結びリング型ネットワークを構成しています。これが

大動脈に相当するわけです。各棟では、CISCO社製のルータと呼ぶ装置(心臓に相当)で内部に分岐し、各棟内の情報機器(サーバやパソコン)に接続しています。

写真1はネットワーク設備の1つで、上部にルータがあり、光ファイバケーブル(黄色の線)で他棟のルータと接続しています。通信速度は2.4ギガビット毎秒(以下Gbps)で学内の情報伝送量に十分な能力を持たせています。下部は、CISCO社製のL3スイッチ(スイッチングハブ)という装置でルータと光ファイバケーブル(オレンジ色の線：1Gbps)で結ばれています。L3スイッチからGbpsまたは100メガビット毎秒(以下Mbps)のイーサネットケーブル(緑色の線)でサーバや実習室のパソコンに直接接続しています(末梢の血管に相当)。

写真2は実習用サーバ群の1つでhp社製のファイルサーバという装置です。この装置は、73ギガバイト(以下GB)の容量を持つハードディスク56台を備え、約3.5テラバイト(以下TB)のディスク容量を実現しています(人間の体でたとえると大脳に相当)。これだけのディスク容量があれば、約1,700人の在校生一人ひとりが約2GBのディスク容量を使えることになります。

本学では、このファイルサーバと移動ユーザ

情報センター事務室室長 市川 泉

ロファイルという技術を使用して、学生がどこの実習室のどこのパソコンを使用(ログインと呼ぶ)しても、デスクトップ画面やマイドキュメントフォルダなどの個別の環境が変わらないようにしています。

その他のサーバには、Unix用ユーザ認証サーバ、Windows用ユーザ認証サーバ、実習室用プリントサーバ、科目別教材管理ファイルサーバ、学内向けWebサーバなどの十数台のサーバ群があります(人間の脳に相当)。

ユーザ認証サーバは、実習室でパソコンを使用するときには必ずログイン操作(ユーザが個々にユーザ名とパスワードを入力)を行わせ、使用ユーザを確認しないとパソコンが使用できないようにするための管理サーバです。

実習室用プリントサーバは、実習室内の共用プリンタへ印刷情報を出力・管理する機能と学生個々に割り当てられた年間印刷可能枚数の制限値を管理する機能を実行しています。

科目別教材管理ファイルサーバは、科目ごとに学生への配布資料や提示教材の情報を持ち、提出課題の提出先にもなっています。

学内向けWebサーバは、教員が管理する学生向けの学内からのみアクセス可能なホームページ「計算機自主学習支援システム-白虎-」やホームページ作成演習などで使用する「玄武」などを管理しています。

その他学内には、大学の公式ホームページを管理するサーバ、学内や学外との電子メールを管理するサーバ、教員が使用する研究室用のサーバ、事務系のサーバなどがあり、大半のサーバを情報センターが管理し常時稼働できるようにしています。

実習室や講義室では目の前のパソコンしか見えていないわけですが、パソコンに接続しているLANケーブルの先にはこれだけの様々な装置が働いて実習環境を支えているわけです。



写真②



写真①

◆◆ 教職員の動向 ◆◆

◇大 学◇

<教 員>

就任 (8月1日付)

就職部長 立花 峰夫

<事務職員>

就任 (8月1日付)

学生サポートセンター事務室係長 渡利 国彦 (学生生活指導担当)

配置換 (8月1日付)

総務課庶務係長 角谷 有規 (教務課教務係長)

会計課経理係長 岩本 和生 (総務課庶務係長)

学生サポートセンター事務室係長(就職担当)

瀧澤 浩基 (会計課経理係長)

◆◆ 広報活動 ◆◆

<北海道情報大学通信教育部説明会；本学独自>

7月：8会場 (名古屋、大阪、東京、福岡、帯広、釧路、北見、旭川)

8月：1会場 (札幌)

<進学相談会>

5月：北海道 9会場 (枝幸、紋別、網走、釧路、帯広、北見、旭川、札幌、函館)

岩手県 1会場 (盛岡)

秋田県 1会場 (秋田)

新潟県 1会場 (新潟)

6月：北海道14会場 (中標津、根室、稚内、名寄、留萌、浦河、江差、旭川、北見、釧路、帯広、室蘭、苫小牧、小樽)

青森県 3会場 (青森、弘前、八戸)

岩手県 1会場 (盛岡)

7月：北海道 1会場 (八雲)

<合同入試説明会>

7月：北海道 5会場 (函館、帯広、釧路、北見、旭川)

<高校内進学ガイダンス>

4月：北海道 1校 (札幌大谷高校)

5月：北海道 4校 (釧路東高校、深川東商業高校、千歳北陽高校、釧路北高校)

6月：北海道17校 (恵庭南高校、苫小牧工業高校、札幌北斗高校、室蘭大谷高校、苫小牧中央高校、札幌静修高校、帯広大谷高校、札幌篠路高校、札幌稲雲高校、札幌新川高校、当別高校、旭川滝谷高校、駒沢大学附属苫小牧高校、駒沢大学附属岩見沢高校、伊達高校、石狩翔陽高校、苫小牧東高校)

青森県 2校 (八甲田高校、浪岡高校)

7月：北海道 5校 (札幌龍谷学園高校、北海学園札幌高校、北海高校、札幌白陵高校、旭川大学高校)

青森県 1校 (松風塾高校)

<高校出前授業>

6月 2日(水) 函館東高校

6月29日(火) 白糠高校

<高校訪問>

4月：北海道 54校

5月：北海道256校

岩手県 5校

6月：北海道120校

7月：北海道154校

<教員対象大学説明会>

7月16日(金)

<オープンキャンパス>

6月 5日(土) 女子向け、6月27日(日)、7月31日(土)、8月1日(日)

<A・O入試説明会>

5月30日(日)、6月5日(土)

◆◆ 4月～8月主要行事 ◆◆

◇法人本部◇

5月17日(月)～5月22日(土) 監査法人トーマツ決算監査

20日(木) 理事会

29日(土) 情報通信月間行事参加

6月15日(火)～6月16日(水) 情報通信フェア2004出展

7月 8日(木) 「松尾三郎 生誕90年の集い」(東京)

◇大学院◇

4月26日(月) 大学院説明会(札幌教育センター)

27日(火) 研究科委員会

5月13日(木) 大学院説明会(衛星放送)

29日(土) 特別推薦入学試験

6月 8日(火) 研究科委員会

26日(土) 推薦入学試験

7月13日(火) 研究科委員会

◇大 学◇

4月20日(火) 留学生との夕食会

26日(月) ハラスメント防止啓発講演会

5月14日(金) 経営情報学部教授会

21日(金) 情報メディア学部教授会

28日(金) 全学教授会

6月 9日(水) 留学生との交流懇親会

10日(木) 創立記念日

11日(金) 情報メディア学部教授会

18日(金) 経営情報学部教授会

21日(月) 中華人民共和国 国家外国専門家局 視察団来学

23日(水)～6月24日(木) 体育祭

25日(金) 全学教授会

27日(日) 中国南京大学との編入学共同プロジェクト第1回説明会

30日(水) アメリカカリフォルニア大学サンタクルーズ校(UCSB)から客員教授としてJack Callon先生来学

7月 1日(木) Jack Callon先生が学長表敬訪問

9日(金) 経営情報学部教授会

16日(金) 情報メディア学部教授会

22日(木) Jack Callon先生特別講演会

25日(日) A・O入試(A日程)第1次面談

〃 南京大学編入学第1回入試

26日(月) 臨時経営情報学部教授会

27日(火) 留学交流にかかる危機管理講演会

29日(木) 客員教授Jack Callon先生帰国

◇通信教育部◇

4月21日(水) 名古屋教育センター大学見学

6月 4日(金)～6月 6日(日) 前期地方スクーリング(1) 全国12会場

11日(金)～6月13日(日) 前期地方スクーリング(1) 札幌、名古屋、福岡

18日(金)～6月20日(日) 前期地方スクーリング(2) 全国15会場

25日(金)～6月27日(日) 前期地方スクーリング(2) 名古屋、福岡

7月 2日(金)～7月 4日(日) 前期地方スクーリング(3) 札幌、新潟、名古屋、福岡

9日(金)～7月11日(日) 前期地方スクーリング(3) 全国15会場

26日(月) 新潟教育センター大学見学

◆◆ 主な来学者 ◆◆

5月18日(火) 北海道栄高校

19日(水) 浜頓別高校

25日(火) 白樺学園高校

6月11日(金) 釧路工業高校

21日(月) 中華人民共和国 国家外国専門家局 陳陽進・常務副局長 他6名

30日(水) 日本大学総合学術情報センター 宮本教授 他3名

23日(水) 野幌高校(総合学習)

7月 2日(金) 千歳北陽高

編集後記

第30号を発行するに当たって紙面を一新した学内報『ななかまど』は、幸い好評のうちに再スタートを切ることができました。大学を取り巻く環境は年々厳しさを増しつつありますが、それだけに情報大内外の関係者が一つに集う「広場」としての学内報は、大切なものになって来るでしょう。編集委員一同も、元気が湧いて来るような学内報の紙面作りに、今後も工夫を重ねて行きたいと思っております。

(4)